

議事要旨入り

富岡地区円卓会議

自分ごとで考える“地域の居場所づくり”

第2回 令和5年9月30日

はじめにお読みください

本資料は、当日配布資料をもとに、議事要旨を加筆したものです。

なお、当日配布以降に加筆したページは、ページの枠上部を橙色にしてあります。

【凡例】

※当日配布のままのページ



※加筆ページ



▶「富岡地区円卓会議」とは

身近な問題を他人ごと・他人任せにせず、 “自分ごと”で考えて解決方法を話し合う場

■ 色々な人々が集まる

地域のことを良く知る人

- 地域づくり協議会
- 区長

地域で暮らす人

- 「無作為抽出」で選ばれた人
- 市内高校生

行政職員

- 地域づくり協議会応援隊
- テーマ有識者

■ 進め方

シナリオはつくらない

テーマに対する参加者の意見から論点生まれ、議論を展開させていく。

生活実感から課題を見つける

地域が抱える様々な悩み・困りごとを、実際に暮らしている人々の手によって明らかにしていく。

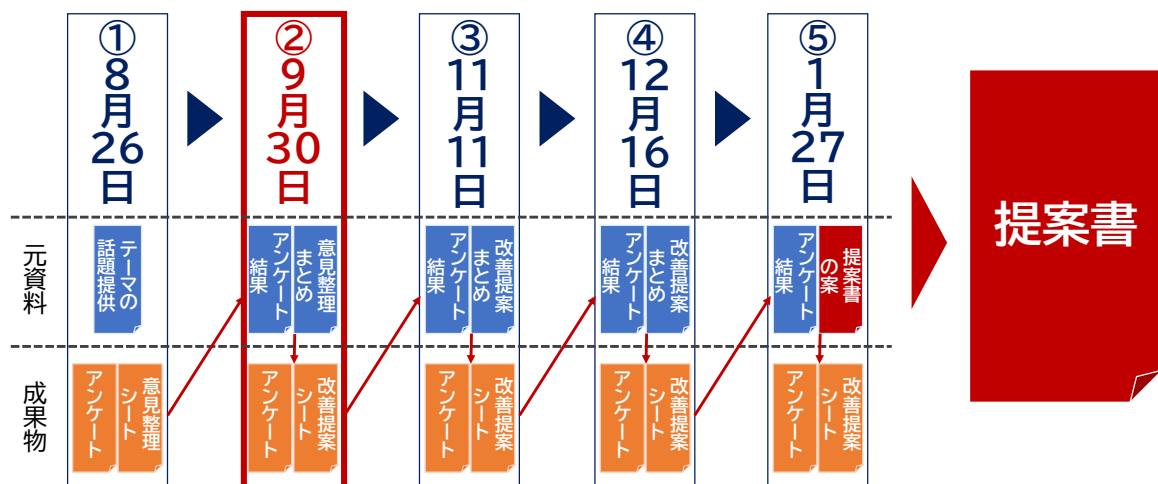
■ “自分ごと”で考える

「自分はどうかしたいか」

- 「何をすべきか」ではなく、「どうありたいか」が入口。
- 他人のせいにならないために「個人でできること」、「地域でできること」から考える。
- 言いつばなしで終わらないように、具体的な課題と改善策を話し合う。

▶ 開催概要

全5回の会議を経て、テーマにまつわる地域課題と改善提案をまとめた「富岡地区円卓会議からの提案書」を作ります。

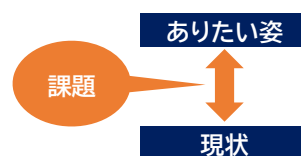


▶ 地域課題と改善提案の見つけ方

次の考え方を持って話し合い、課題と解決方法を見つけていきます。

課題＝「ありたい姿と現状のギャップ」

- 「自分が目指す姿」を考え、「現状」を知り、比べることで、課題がはっきりしてきます



私たちの「ありたい姿」と「現状」は？

- 第1回の会議の内容と、意見整理シート（次回以降は改善提案シート）がヒント
 - ▶ みんなの考える「私の居場所」：ありたい姿の本質
 - ▶ 意見整理シート：ありたい姿と現状



課題に自分ごとで向き合う

自分の身の回り、生活の中で感じることから考えて、少しずつ広げていきましょう

前回の振り返り

▶ 前回の成果

- ① みんなが思う「私の居場所」
- ② 話題提供「ふれあいの居場所」
- ③ 意見整理シート

- 居場所が無くて困っている人は誰？
- その人のためにどんな場所があるといい？

▶ 振り返り① 「私の居場所」

「私の居場所」の発表結果

- 野菜、花、畑、土を触っているとき
- 川、水のまわり(清掃活動もしている)
- お茶をたてているとき
- 庭。土を触っているとき
- 書を書いている場所
- 畑。家庭菜園に打ち込んでいるとき

- カフェで勉強しているとき

- ボランティアをしているとき
- 人と関わっているとき
- 学校の休み時間、友だちと話しているとき
- 会議のアフター
 - 終わった後の井戸端会議
 - 「このあと飲みに行く？」→「行く行く」みたいな空気

ひとり

周りに人がいるけどひとり

なかま

みんなの思う「私の居場所」まとめ

居場所
(落ち着く、楽しい、安心するところ)
とは…

- 自分の趣味・好きなことに集中できる場所
- 趣味趣向が合う仲間同士で過ごすところ
- 友人・知人と一緒にいられるところ
- 誰かの役に立てる場所
- 誰かに必要とされる場所

||

「ありがたい姿」の本質

▶ 振り返り② 「ふれあいの居場所」まとめと補足

行政の事業背景

- 富岡市は少子高齢化が進んでいる
- 現在、市の人口約46,000人のうち、約16,000人が高齢【**高齢率34.7%**】
 - 単なる高齢化ではなく、**75以上が著しく増加傾向**にあり、下の世代はどんどん減少する傾向にある
 - また、**単身世帯化**も激しく進んでいる

※高齢者が抱える問題 (特にひとり暮らし高齢者)

- 頼れる人がいない
- 心身機能の低下
- 外出手段がない
- 近所との交流が薄くなっている

地域力低下・要介護者や
閉じこもりが増加

行政の「ふれあいの居場所」支援策

- ① 勉強会や研修会
- ② 設立希望者へ個別相談対応
- ③ 設立補助金制度
- ④ 事業内容によって職員を派遣することも(例:体操教室)

※補助条件・約束ごと

- 年間45日以上(≒最低週1回以上)開催する
 - 「誰でも受け入れられる体制」がある
 - 最低5年以上継続して運営できる見込みがあること
 - おおむね5人以上の市民により組織される団体
- ▶ 条件をクリアすれば、合計最大40 30万円の補助金
 - ▶ 使い道は、建物改修に最大30万、備品購入に最大10万と定められている

▶ 振り返り② 「ふれあいの居場所」まとめと補足

現在のふれあいの居場所の数と利用者

- 市内23か所
- 年間利用者総計17,805人

▶ 詳しくは補足資料
「富岡市ふれあいの居場所一覧」参照

「ふれあいの居場所」が抱える問題

会議参加者からの意見から見えた問題点

- **維持するのが大変**
 - ▶ 運営の補助金が欲しい(電気代、水道代、その他建物維持管理…など)
 - ▶ 建物の維持管理にお金がかかる
- **良いコンテンツや、良いリーダーがいないと続かない**
- **新しいことが始められない**
 - ▶ 市からいいやり方の例示や、すでに動いている事例の紹介があまりされていない
 - ▶ 運営の担い手は…？

▶ 振り返り② 「ふれあいの居場所」まとめと補足

ちなみに…

市行政は「**地域の子どもの居場所**」の支援も行っています。

概略

学習・食事・遊び・体験活動を提供する団体を支援

- **子ども食堂**
子どもたちのために無料または低価格帯で食事を提供
- **学習支援**
子どもたちが環境に左右されることなく学べる機会を提供

支援内容

- 活動団体と協賛団体(※)との情報共有を進め、ネットワーク化を推進。
(生活協同組合コープぐんま、フードバンク「縁」)
- スタートアップ補助金(最大20万円)
改修、物品購入、広報費が対象
- 活動事業補助金(年間最大15万円)
活動経費の1/2。人件費等一部対象外あり

現在の市内活動団体

団体名	活動内容
うだん家	子ども食堂 (小学生から高齢者)
みんなのおうえん団	昼食付無料学習会 (小学生から高校生)
妙義会みつばち食堂	子ども食堂 (小学生から高齢者)
かぞくサポート	子どもの学習支援・活動支援 (幼児から小学生)

※補助条件

- 最低月1回以上、2年以上継続して開催する
- 無料または低額で提供する
- 宗教的または政治的な活動はNG

▶ 振り返り③ 意見整理シート

第1回の意見整理シートと、会議発言内容を取りまとめて分類しました。

分類

みなさんが思う「居場所が無くて困っている人」、「どんな場所があると良いか」を分類しました。

1. 高齢者
2. 子ども・子育て
3. 趣味
4. 障がい
5. ペット
6. 情報伝達
7. デジタルディバイド
8. 未婚・単身
9. 若者

ジャンル傾向

さらにその内容から傾向を見ると、個別にターゲットを絞った意見と、共通的な意見にジャンル分けできます。

【個別ジャンル】

- 1. 高齢者
- 2. 子ども・子育て
- 4. 障がい
- 5. ペット
- 8. 未婚・単身
- 9. 若者

【共通ジャンル】

- 3. 趣味
- 6. 情報伝達
- 7. デジタルディバイド



この結果をもとに、今回は「個別ジャンル」の中からテーマを選定して話し合います。

グループワークに向けて

▶ グループワークに向けて【テーマ選定結果追記】

4つのグループで、それぞれ異なる個別テーマについて話し合います。
自己紹介を交えながら、グループでテーマを決めてください。

グループ1 ② 子ども・子育て

グループ2 ⑤ 未婚・単身・若者

グループ3 ③ 障がい

グループ4 ① 高齢者

個別テーマ候補

- ① 高齢者
- ② 子ども・子育て
- ③ 障がい
- ④ ペット
- ⑤ 未婚・単身・若者

▶ ペットはグループワークのテーマには選ばれなかった。

▶ 改善提案シート

今日のゴールは、みなさんが「改善提案シート」を書くことです。
ここに書く内容を、グループワークで見つけてください。

【記載イメージ】

課題	公園が利用されていない	
	(だれが)	(何を)
改善提案	個人(私)	知らない公園が多いので把握する
	地域	草刈りなど、公園整備をサポートする 休憩用のベンチを提供する
	行政	(市)街の中にある遊び場の情報を、市全体から収集する (公民館)地域サロンを開き、地域に特化した情報を、地域住民へ提供する
	その他	個人や地域、行政以外で、改善をお願いする主体があれば記載 (民間企業やNPO など)

議論を踏まえて感じた現状の課題を記載

課題とその解決に向けた方法を記載
◆だれが?
◆何を?

改善提案シートには、「グループの総論」ではなく、「話し合った結果、私の考えたこと」を書く。

- ここに書かれた内容が「提案書」に反映されていく。
- グループで発言されなかった内容や、他の人たちと違う考えを書いてもOKただし…
 - 他人任せにしないために「個人でできること」、「地域でできること」から考える。
 - 言いつばなし・他人任せで終わらないために、なるべく具体的に。

▶ 課題と改善提案の捉え方

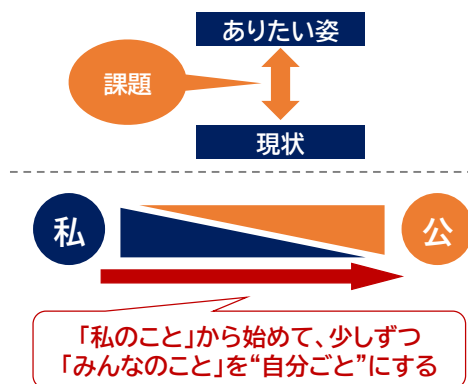
課題＝「**ありたい姿と現状のギャップ**」

- 「自分が目指す姿」を考え、「現状」を知り、比べることで、課題がはっきりしてきます

課題に自分ごとで向き合う

どうすれば解決できるか、
自分の身の回り、生活の中で感じることから
考えて、少しずつ広げていきましょう

- 私にできること・一人ひとりができること
- ひとりでは無理だけど、何人か集まればできそう
- 広範囲・一律的な取り組み、決まり事が必要
- いち住民や行政だけでやるには向いていない



- 個人の役割
- 地域の役割
- 行政の役割
- その他(企業など)

▶この場のルール

誰かの発言中は「聞く」姿勢

- 頭ごなしに否定してはいけません
- 発言をさえぎってはいけません
でも、ファシリテーターだけはSTOPを
かけられます！

年齢・肩書・立場に こだわらない&気にしない

- 重要なのは“誰が言ったか”ではなく“何を
言ったか”
- 「偉い人がこう言った。だから私の考えは間
違っているんだ」と思わない
- 「コイツ若造のくせに…」もNG

かっこつけない

- 「すごいこと言ってやろう」と思わない
- 生活する中で感じることから生まれる
考えこそ本質

「自分ごと」で考える

- 「誰かがやればいい」ではなく、
「私にできること」を考えのベースに
- 周りの人のこと、企業のこと、行政のことといっ
た「誰か」のことも「自分に関係のあること」
として捉える

▶グループワークの結果

グループ1 子ども・子育て

▼子育てには不安がつきもの

- 自分の家が一番安心
- 父親が家事を手伝うのが大事

▼サポートをしてくれる人が必要

- 祖父母や近所に住んでいる先
輩ママ・パパにサポートをお願い
する
- お祭りなどのイベントで交流
を増やす
- 子ども連れの散歩

■「地域で子育て」が
できる環境をつくりたい

グループ2 未婚・単身・若者

▼困る場面・いま困っていること

- ひとり・単身の人は、けがや病
気など、身体に問題がおきた
ときに頼れる人がいない
- 「交流する場所」に対する不安
もあるが、交流がないと救わ
れない人がいる

▼中高生

- スマホばかりで直接の交流が
減少
- 帰宅部(部活に入っていない)
人は、より交流が少なくなっ
ている

■社会人は異業種交流、
学生は他校交流の場が必要

- 異業種との交流の場所があれば、良い
出会いが生まれるのではないが
- 他校生との交流の場所をつくりたい
そのためには、タブレット端末を使って
学習できるネット環境が整っていること
が重要

▶ グループワークの結果

グループ3 障がい

▼自分たちがわかっていない

- 障がいのある方々の現状、その家族の現状を把握できていない
- 居場所づくりよりも前に、「状況の把握」を優先すべき

▼把握し、サポートするためには…

- 「障がい」とひとこと言っても幅が広い
- 焦点を定めないとサポート手段も特定しにくい
- コンテンツありきではない。把握し、支援する範囲を定め、コンテンツを決める
- 体験したことがないと、本当のことはわからない
- 当事者同士の共有・共感も重要

■私たちは「体験して知る」こと、障がいを抱える人たちには、「かるい気持ちでゆるく集まれる」場所づくりが必要

- まずは体験が重要
 - 手話教室(ドラマからアイデア)
 - ブラインド体験
 - 車いす体験
- 形式ばった会議・会合でなく、飲食店などを使ってカフェ形式で軽く・ゆるく
 - すでにある「ふれあいの居場所」を活用したい

■範囲を広げ、さらに良くしていくために

- 障がい者が持っている「壁」を検証すべき。そのために行政には、より広い範囲で現状把握のための調査をして欲しい。
- SNS などを利用することで、助けが必要な人が、必要なときに必要な情報を得られるようにしなければならない。

▶ グループワークの結果

グループ4 高齢者

▼「孤立」している人達を助けたい

- そもそもどんなことをしているときに楽しい・居心地がいいのか？
 - 誰かと顔を合わせる
 - おしゃべり
- 孤立している人達はどこにいるのか？
 - 家から出ない・閉じこもり
 - 何かの集まりを開いても来られないのではないのか

■出てこられない人のために、こちらがサポートに行く

- 子どもたちが高齢者の家を訪問して、顔を合わせるサイクルを作りたい。
 - 高齢者が高齢者を訪問するのでは、次世代に引き継がれていかない。
 - 循環性を持たせたい。

■同時に

「若者が高齢者の家を訪問する」ことへのハードルを下げる必要がある

- 地域で若者・高齢者を巻き込んだイベントを開いて、徐々に顔合わせしていく。
- 街のお店の人にもサポートしてもらおう。
- 地域の人にもサポートや声掛けをしていき、その中で、孤立した人なるべく把握できるよう努める。

全グループ発表後、感想を個別発表

- いい場を作ってもらった。
- 思ったことが自由に言えた。
- みんなの意見を聞いて良かった。
- 富岡市にドッグランがあるのを初めて知った。
- 障がい者の居場所づくりが、すでに行われているということを知らなかった。
- これからどうやって行動して改善していくか、考えるきっかけになった。
- 普段の生活の中では、同じような所属・業界でしか話ができないので、違う世代・所属の人と話せて新たな視点・いろいろな解決策が見えてきて楽しかった。